

■「性と生を考える会」とは？

人はどのように、他人の性別を判断しているのでしょうか？見た目の性別が、必ずしも体・心・戸籍の性別と同じとは限りません。生まれた時の体の性別とは異なる性で生きる人、恋愛・性的対象が同性・両性である人など、いわゆる性的マイノリティ(LGBTQなど)と呼ばれる人たちが世界中にいます。

人の数だけ性のありようは多様であり、誰もが多様な性を生きる当事者であると考えられることもできます。多様な性のありようも含め、性を人権の視点から考えようと始めたのが、「性と生を考える会」です。

■こんな活動をしています

会の結成当時、まずは、タブー視されがちな性について、自由に語り合える場、考え学べる場を作ることを目的に、学習会やサロンを始めました。さらに、日常の社会生活において、実際に性的マイノリティの人たちが受ける不便や不利益、苦痛を解決するために、奈良県内の自治体及び関係機関への要望書や陳情書、意見の提出など地域への働きかけを積極的に行ってきました。また、性的マイノリティの存在や多様な性のありようについて知ってもらえるよう、冊子や通信の発行、研修会への講師派遣など、情報発信や啓発活動、交流や相談活動などを行っています。

■成果と課題

近年、活動を通して感じることは、性的マイノリティについて話がしやすくなってきたということです。社会での認知も広まりつつあります。

しかし、性的マイノリティの人たちは、まだまだ多くの点で暮らしにくさを感じながら毎日を過ごしています。例えば、肉体的には男性であっても心は女性である人が、安心して使えるトイレはほとんどありません。また、たとえ長年一緒に暮らしていても、同性のパートナーが家族扱いされる制度はありません。

自分が性的マイノリティであることは、家族や友人、職場には言いにくいと思っている人がたくさんいます。生きづらさやストレス、自分自身の存在を否定されるような環境

の中で、不登校や引きこもりになっている人、自殺願望を抱える人たちがいます。いじめられた経験を持つ人も少なくありません。何より、人と違った性のありよう気づいた子どもたちが、自分を知るための情報や教育がありません。

学校現場ではようやく具体的な取組が始まったところですが、まずは、自分が何者であるのか悩み苦しむ子どもたちに、自分を肯定するための情報と安全な環境を届けるということは、教育・社会面における非常に重く緊急の課題です。

■最後に

ニュースやイベントばかりが注目されがちですが、この奈良県にも性的マイノリティの人々は暮らしています。地方ならではの課題や苦労もあります。テレビの向こうの話ではなく、地域の、隣にいるかもしれない人たちの話なのです。

自分とは違う人を理解することは難しくても、現実に多様な性のありようがあり、それぞれに尊重されるべき人生があることを知って欲しいと思います。

マイノリティの子どもたちが自分の将来に希望を持てるような社会、性別・性自認・性別表現・性的指向にかかわらず誰もが尊厳を守られ自分らしく生きることが出来る社会になるよう、これからもこの奈良で活動していきたいと思っています。

多様な性を生きる
性と生を考える会
誰もが自分らしく生きられる社会に

性と生を考える会

■平成12(2000)年設立

■〒630-8133 奈良市大安寺3丁目9-14-202

(代表 中田ひとみ 方)

TEL/FAX 0742-63-1482

E-mail nakatah@kih.biglobe.ne.jp

■制作冊子(共同制作を含む)

「教職員のためのセクシュアル・マイノリティサポートブック」

「性・セクシュアリティ人権マップ 奈良県版」

「わたしたちはここにいる 性的マイノリティの声：奈良県版」